

ポ レ ポ レ P O L E P O L E

※スワヒリ語で「ゆっくり・ゆっくり」の意味

美深町特別支援連携協議会研修部会

研修部会報（理解啓発部） No.3

文責 高橋 幸也（美深中学校）

達成感を感じる実践を～美深小学校吉田先生にインタビュー

美深町の特別支援に関わる方々のインタビューも今回で3回目を迎えました。今回からは、より実践的な現場の現状を伺いたく美深小学校の吉田亜美先生にインタビューに伺いました。

（一聞き手は高橋 「お話」は吉田さんです）

－美深小学校の特別支援の体制を教えてください

「現在は知的1名情緒9名の計10名を教員3名と言葉の指導員1名・指導員1名の計5名の体制です」

－時間割上で工夫されていることはありますか

「まずは交流学級の時間割が決まり、それにあわせて木曜日までに特別支援の生徒達の独自の時間割を決めます。時間割は1日ごとに担当者と内容を確定させます。マンツーマンを基本としますが、担当が偏ることのないようにしています。また、授業内容はマラソン大会が近いときには体力作りを入れるといった、交流学級の学習内容に併せて考えます」

－学年も内容也多岐にわたってますが、教職員の連携で工夫されていることがあれば教えてください

「毎週火曜日の16:00くらいから打ち合わせをし、生徒に関する情報の交流を行っています。あとは、日常交流学級の担任の先生からいろいろな情報を聞いています。基本的に学習はプリントではなく、ノートを使って指導していますので、生徒の使っているノートを見れば、前の時間どのような学習をしてきたのか職員間でわかるようにしています」

－保護者との連携について特に工夫されていることはありますか

「連絡帳での様子の連絡は、ほぼ毎日行っています。あと、年に4～5回、個人懇談を行う中でスクラム（生徒個人の個別支援計画）を活用しています。だいたい10月までにスクラムを作成し、懇談の中で学習内容や生活の内容を確認し、年度途中でも更新して、よりよい援助の方法を考えています。また、懇談を行うときには『生徒の将来像を保護者の方々も描けるように』ということに気をつけて行っています」

－美深の特別支援教育について特徴的なことや感じることはありますか

「特別支援の対象となる生徒が年々増えてきているように感じます。また、この地域の保護者の方々は、特別支援に対する理解がある程度あり、あまり抵抗なく在籍変更ができています。保護者の方々の理解が深い地域だと思います」

－最後に吉田先生が本校の特別支援教育において大切にされていることは何ですか

「ひとつでもできたという達成感を味わってもらうこと、そしてその喜びを一緒に味わうことが大切だと思います。勉強でも遊びでも達成感が次に頑張ろうとする自信につながっていくのではないのでしょうか」

その昔、ロシアのヴィゴツキーという教育学者は「発達の最近接領域」ということを提言しました。自分がちょっと頑張れば乗り越えられそうなことの繰り返しで人は成長するけれど、自分から遠いと感じる領域に関してはやる気を損ね、学習できないという内容だったと記憶しています。

特別支援は（というよりどの生徒も）出来るという小さな達成感の繰り返しだと思いますし、その達成感を一緒に味わえる教員でありたいと、インタビューを聞いて感じました。